

小売業の資金調達・店舗レイアウト策定 支援

住所	宮城県亶理郡山元町山寺字頭無161-1	資本金	-
代表者	橋元 伸一	従業員数	3名(震災後)
創業年	-	売上高	-
業種	小売業(食品、酒、たばこ等)		
TEL	0223-37-0036	URL	-

事業概要(被災前)

- ・祖父の代から、JR山下駅前に店舗(簡易郵便局の併設)を構える。
- ・食品、日用品の取り扱い(デイリーショップ)のほか、簡易郵便局を営む。
近隣住民にとっては、買い物(最寄品)の利便性、地域コミュニティの拠点。



被災概要

- ・津波により、1階天井部分まで浸水。店舗設備・商品はすべて流出。
- ・当時の社長(現社長の父)が震災により亡くなった。



JR(旧)山下駅構内とJR常磐線の被災状況

復興に向けた状況や課題

- ・JR常磐線の内陸側への移設計画に伴い、駅舎は撤去、解体。
近隣住民は大幅減少(山元町全体では1万7千人から1万人を切るまで減少)。
- ・中小機構が整備した町内合戦原の仮設店舗にて営業再開。
(内装設備、仕入れなどは銀行からの借入金で賄う)
- ・被災店舗は、本設修繕のための資金の用途は立たなかったが、ボランティアや工事関係者の要望に応え、雨風を凌げる程度の修繕にて細々と営業を仮再開。



近隣住民は大幅減少



1階天井まで浸水した店舗。ボランティアや工事関係者の要望により、自販機の設置、夏場のアイスクリーム販売、休憩スペースの提供など、細々と営業を再開

支援テーマと内容



1. グループ補助金申請の支援

- ・グループ組成
- ・復興共同事業の企画立案・実現可能性検討
- ・申請書作成
- ・補助金交付までのつなぎ資金、自己資金部分の高度化融資の調達
- ・補助金交付・精算手続き

2. 店舗レイアウト見直しの支援

3. 復興共同事業推進の支援



黄色いハンカチ プロジェクト



花壇を造ろう プロジェクト

支援の成果



写真館のテーマは「海からの風
にのって笑顔が集まる写真館」



本設完了した旧山下駅前の店舗。簡易郵便局を併設

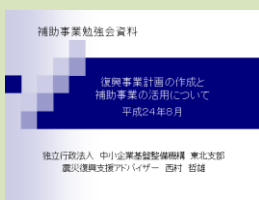
山下駅舎が撤去されたことで、駅に代わり「橋元商店前」というバス停留所ができています。

- ・グループ補助金の復興共同事業の一環(コミュニティ事業)で橋元商店の倉庫を改造した「みんなの写真館」オープン。
- ・東京芸術大学の学生ボランティアの協力で外壁に絵画を描くことになった。

- ・震災前の町の風景、震災後の復興状況の写真を掲示。
- ・過去と未来への架け橋となる願いと橋元商店にちなんで、写真館名を「ブリッジ」と命名

支援の成果

- ・グループ補助金採択「第6次」
16社のグループ。補助金対象は当社含む7社。
- ・店舗レイアウト変更
顧客の動線を考えた売り場の変更
産地直売スペースの確保
など
- ・本設修繕完了、改装オープン(平成25年5月)
- ・復興共同事業の一環で講師派遣
BCPセミナー、
消費税嫁嫁対策セミナー



今後の事業展開

- ・新山下駅は1km内陸に移転予定。また、橋元商店なども道路整備計画(山元町の復興計画)の影響で移転若しくは減築を余儀なくされ、店舗レイアウト見直しについて検討中である。
- ・店舗レイアウトの見直しにあたっては、地域住民が集えるコミュニケーションの場としてリーズナブルな惣菜メニューを取りそろえた缶詰居酒屋等への業態変更について検討中である。
- ・山元町は新山下地区の新市街地形成に向けた動きを開始＝グループ補助金の商店街型、立地補助金の商業施設型を活用した商店街形成の検討を進めている。
(→ 中小機構による、補助金や運営母体に関する勉強会の開催に至る 平成26年8月実施)

事業者からのコメント

これ以上の資金負担ができない状況で、グループ補助金制度の存在を知りました。中小機構の震災復興支援アドバイザーからは、グループ組成から、申請書の書き方、採択後の手続き、補助金以外の資金調達、および店舗レイアウトの決定などを親身になってご支援していただき、その結果、こうして、施設を復旧し営業が継続できています。

道路整備計画の影響により内陸側の新山下駅周辺での店舗営業も一時考えましたが、「震災前から営業していたこの場所を切り捨てられない」との強い思いから、小売店から飲食店へ業態変更することも視野に入れ店舗レイアウトを見直した上で、同じ場所で新たな一歩を踏み出すことを決意いたしました。

店舗レイアウトの変更に際しては引き続き震災復興支援アドバイザーのアドバイスをいただくことになっております。

今後は行政を巻き込んだ商店街構想とその実現が山元町復興のカギのひとつになりそうです。これからもお力添えいただければ幸いです。



(有)橋元商店の
橋元社長ご夫妻

震災復興支援アドバイザーからのコメント

橋元商店さんの場合は、グループ補助金を活用して店舗を全面改装するとのことでした。橋元さんの「コンビニ風のミニスーパー的な店舗にしたい」という希望を聞き、顧客の動線を考えた売り場変更やバックヤードを活用して店舗スペースを確保したり、コンビニ的機能として地元の人が参加できる直売所などを提案。産地直送的な商品や惣菜などの商品を加えるなどもアドバイスしたところ、ほぼ私の提案に沿った改装に変更していただきました。

一方で、橋元さんの地元の方々への役に立ちたいという熱意を実現するには安定した経営が必要なため、宅配に力を入れたり、朝採り野菜などの産直品販売も取り入れて収入増を図るなど、「コミュニティショップ」としての位置づけを強調しました。今後もまちづくりのニーズはどんどん出てくると思いますので、それら地域の多様な課題に対して適切にアドバイスしていきたいと思っています。



震災復興支援アドバイザー
松浦 忠雄
大手小売業、ショッピング
センター開発など、一貫して
流通業に携わる。